

④ 水そうの中には、すきとおった水と、水の流れにゆらめく何本もの水草、三匹の赤い金魚がすいすいと泳いでいる。

+
ふわふわと

+
その水草の間を

□

⑤ はじめはハ之助の話を聞いてたお殿さまでしたが、さんまを買いそこねたことを聞いたとたんに顔の表情がなくなり、「そうか、さんまは無いのか。」とぼつんと言っと、うなだれてしまいました。

+

にこやかに

+

しょんぼりと

□

⑥ ハ之助は、お殿さまがさんまを食べたがっているとは思っていませんでした。お殿さまが好きなのは、たいのような高級な魚とばかり思っていたのです。しかし、実はお殿さまにとっては、たいよりもさんまの方がめずらしい魚なのです。

+

それほどまでに

+

よほど